

【実施結果報告書】

第3回“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅



亀岡市「世界連邦・非核平和都市」宣言

世界の恒久平和は、人類共通の切なる願いです。

核兵器は、その願いを妨げる脅威でしかありません。

私たちが求めるのは、あらゆるいのちの営みを一瞬のうちに奪ってしまう核兵器の廃絶であり、その存在を許さない世界の実現です。

私たちは、世界連邦の意志を受け継ぎ、「非核三原則」の堅持を訴え続けます。それらは、人と人との絆を深め、いのちの尊厳を自覚して、自然と人間が共生する世界を築いていくための普遍の原理であるからです。

私たちは、ふるさとを愛し、人を愛し、戦争のない平和で美しい地球を子どもたちに伝えるため、願いを同じくする世界の人びとと共に前進することを誓い、ここに、亀岡市を「世界連邦・非核平和都市」とすることを宣言します。

平成22年 8月 7日

亀 岡 市

目 次

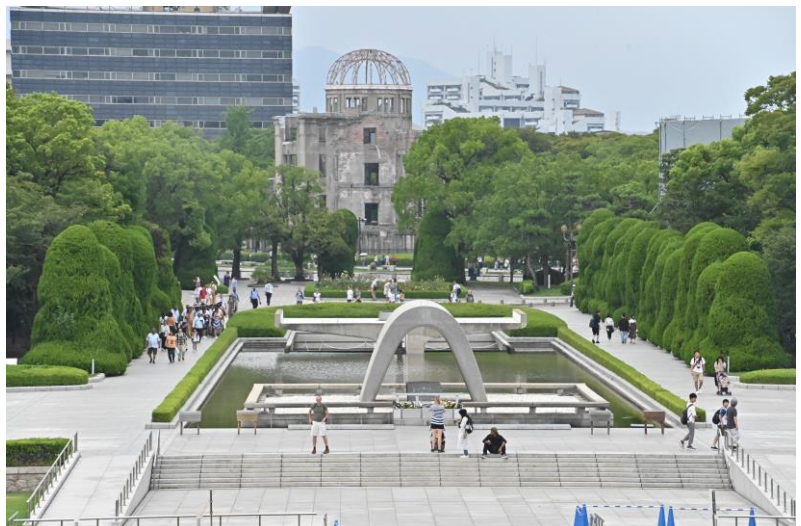
I “ヒロシマ” に学ぶ平和の旅について ・ ・ ・ ・ ・ P.1

II 参加者名簿 ・ ・ ・ ・ ・ P.2

III 事業報告 ・ ・ ・ ・ ・ P.3 ～ P.11

IV 旅の総括 ・ ・ ・ ・ ・ P.12

参加者募集、平和の折鶴募集資料



I “ヒロシマ” に学ぶ平和の旅について

亀岡市では、平成15年から小学生親子を対象に、被爆地広島を訪れ、平和学習および親子の絆を深めていただくことを目的とした「“ヒロシマ” に学ぶ親子平和の旅」事業を平成27年までの間、13回にわたり実施してきました。そして、平成28年には、過去13回の旅の総括の場として「平和学習講演会」を開催し、平和を希求し、“ヒロシマ” に学ぶ当事業の意義を再認識する一方で、新たな事業展開へと想いをつなぎ、当事業に幕を下ろしました。

そして、世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、平成29年から過去の事業成果を引き継ぎ、新たな一步を踏み出す事業として、市内中学生を対象とした“ヒロシマ”を通じた平和学習事業、「“ヒロシマ” に学ぶ平和の旅」を実施することとしました。第3回となる今回の旅では、23名の市内中学生代表が参加し、平和について学習しました。

事業の目的

- ① 人類史上初めての原爆被災地であり、戦争の恐ろしさを象徴する“ヒロシマ”に学び、悲惨な戦争の歴史を風化させずに次代につないでいく。
- ② 市内中学生が実際に現地を訪れ、様々な資料、史跡を自身の目で確認し、さらに、被爆体験講話等を通じ、被爆された方からの当時の詳細な情報や想いに触れ、戦争や平和のイメージをより身近に明確なものとして実感、学習する。
- ③ 参加した生徒に事業を通じて学んだ情報や感じた想いを周囲へと伝えていただく。

事業内容

○事前学習説明会（被爆体験記朗読会）

日時：令和元年7月31日（水）午後2時～午後4時

場所：亀岡市役所 市民ホール

内容：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館登録の朗読ボランティア2名による被爆体験記・原爆詩の朗読と当日の行程等の説明

○平和の旅

日時：令和元年8月22日（木）午前7時～午後7時

場所：平和記念資料館、本川小学校平和資料館等

内容：（旅の当日）

- ・ 被爆体験講話の受講
- ・ 本川小学校平和資料館見学（ボランティアガイド）
- ・ 平和記念資料館の見学
- ・ 平和記念公園内、献花及び折鶴の奉納

（旅の実施後）

- ・ 感想文の提出 → 当報告書の作成
- ・ 各学校での報告など

Ⅱ 参加者名簿

学 校 名	学 年	氏 名
亀岡中学校	1 年	吉 田 光 希
	1 年	山 田 諒
	1 年	岡 本 和 奏
別院中学校	2 年	川 瀬 芽 依
	2 年	和 崎 琢 実
南桑中学校	1 年	宇 野 煌 矢
	1 年	宇 野 光 理
	1 年	谷 口 海 人
育親中学校	3 年	長 嶋 琴 羽
	1 年	福 井 優 花
東輝中学校	3 年	岸 田 未 来
	2 年	伊 狩 時 翔
	2 年	森 川 育 光
	1 年	森 田 梨 里
	1 年	田 中 心 平
	1 年	竹 田 綺 華
大成中学校	3 年	願 野 颯 輝
	1 年	一 瀬 真
	1 年	山 内 惺
亀岡川東学園	8 年(2 年)	中 川 拓 海
	8 年(2 年)	蔭 山 榮 太
	8 年(2 年)	市 原 洋 平
	7 年(1 年)	八 木 明日夢

引 率 者

秘書広報課

小林 秀範

池永 菜穂子

藤原 弘樹

学校教育課

岩崎 晃

Ⅲ 事業報告

【事前学習・説明会（被爆体験記朗読会）】

日時：令和元年7月31日（水）午後2時～午後4時

場所：亀岡市役所 市民ホール



広島市内での平和学習に先立ち、旅の参加者の顔合わせも兼ねて事前学習・説明会を実施しました。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館から朗読ボランティア2名（桂幾子さん、坪井寿子さん）を派遣いただき、被爆者の方々が綴られた被爆体験記及び原爆詩の朗読を亀岡市役所市民ホールにて聴講しました。

一瞬で日常を奪われた人々の混乱した状況や、被爆した人々の痛ましい状態、大切な人が亡くなった悲痛な感情など、当時の悲惨な情景が目に浮かぶようなプロの朗読に、参加中学生は熱心に聞き入っていました。



【折鶴の伝達】

本年も昨年に引き続き、市民の皆様から広島へ奉納する折鶴を募集し、2万羽を超える折鶴が集まりました。

8月7日、平和台公園平和塔前にて挙行了た亀岡市平和祈念式典において、平和の旅参加者の代表5名に桂川市長から激励の言葉とともに折鶴が伝達されました。

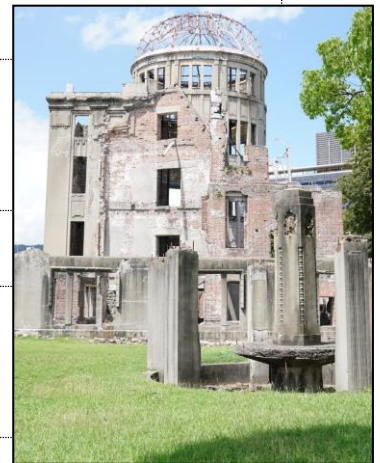


【平和の旅（広島での平和学習）】

日時：令和元年8月22日（木）午前7時～午後7時

行 程

7時10分	亀岡駅集合	
(移動：JR山陰線、新幹線、広島市電)		
10時37分	原爆ドーム前駅着 ※徒歩移動の間、原爆ドームを見学	
11時00分		
12時00分		
(移動：徒歩 昼食会場へ)		
12時10分	昼 食 (広島風お好み焼き)	
13時10分		
(移動：徒歩 本川小学校平和資料館)		
13時20分	<u>広島市立本川小学校平和資料館</u>	
14時20分	<u>(ボランティアガイドによる説明)</u>	
(移動：徒歩 平和記念資料館)		
14時30分	<u>広島平和記念資料館着 (自由見学)</u>	
15時10分		
15時15分	<u>原爆死没者慰霊碑【献花】</u> ⇒ (移動) 原爆の子の像【折鶴奉納】 ⇒ (移動) 集合写真	
15時54分	原爆ドーム前駅発 (移動：広島市電、新幹線、JR山陰線)	
19時14分	亀岡駅着 解散	



【旅の記録】

当項目については、旅の中で撮影した写真記録、参加した生徒の皆さんの感想文（抜粋）をもとに構成しています。なお、感想文の抜粋については、構成の都合上、一部文章の要約等を行っています。



（感想文より「旅のはじまり、参加について」）

- ・最初は戦争なんて遠い昔のこと、広島は何の関係もないと思っていましたが、とある番組で戦争についての特集があり、そのときやっと、これは身近に感じていかなければならないと思い、平和の旅に参加しました。

《原爆ドームの見学》

（感想文より）

- ・原爆ドームを見たとき、あまりにも残酷な被害がそのまま表れていて言葉が出ませんでした。
- ・間近で見ると、鉄骨だけになっている所や崩れたコンクリートが落ちているところがあり、とても怖かったです。



- ・広島栄えた街並みが一瞬で消失するという場面は想像し難いけれど、原爆ドームを見ることで、広島街全体に広がった原爆による被害の一部がわかった気がしました。
- ・原爆ドームは74年前の原爆の被害がきっちり刻まれていて、74年たった今でも広島街の平和を見守り、原爆の恐ろしさを伝えているような姿でした。

《被爆体験講話の聴講》

○原爆被害の実相と被爆体験を中心とした被爆者による講話を聴講しました。



証言者：新宅 勝文さん

被爆時の状況：

「東洋工業（現マツダ）に勤めていた19歳の時、夜勤明けのため、爆心地から1.5km離れた自宅で眠ろうとした時に被爆。」

（感想文より）

- 好きな物をお腹いっぱい食べられることや、家族と一緒にいられることを改めてありがたいことだと思いました。
- 講話の中で僕が最も驚いたことは、人間同士が助け合っていたということです。人々は食糧の少ない中「欲」をおさえて協力しあっていたそうです。
- 「水をくれと言われ、水を渡してはいけないと事前に教わっていたのに、水を渡した。そしてその人は、ありがとう、ありがとうと言って亡くなっていました。あのとき自分は何十人もの人に水を渡して殺してしまった。私は世界一の殺人者です。」という言葉が衝撃でした。
- 被爆者の方から話を聞くことのできた僕たちが、周りの人に戦争について伝えていくことが大切だと思いました。



《広島市立本川小学校 平和資料館見学》

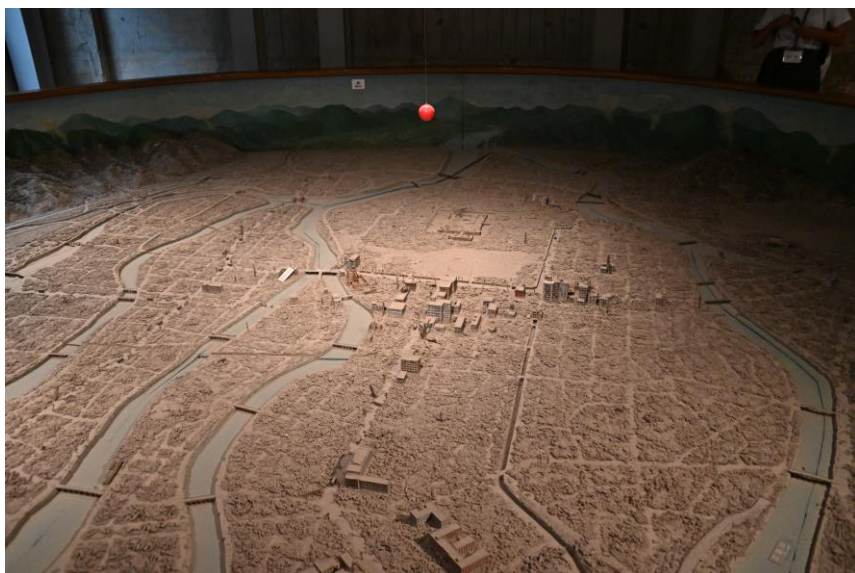
○本川小学校平和資料館をボランティアガイドの解説のもと見学しました。



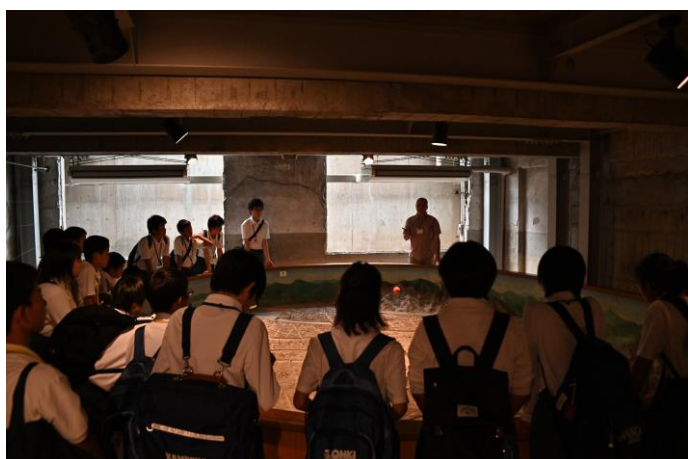
本川小学校は爆心地にもっとも近い小学校（350m）として大きな被害を受けた小学校で、当時校舎は外部を残して全焼、校長先生ほか10名の教職員と約400名の子どもたちの尊い生命が一瞬のうちに奪われました。「平和資料館」は、原爆の被害を受けた旧校舎を「被爆」の証として、そのままの状態で保存した建物です。

（感想文より）

- ・生き残った一人の生徒のことを聞いて、家族も友達も死んでしまっ
てかわいそうだなと思いました。
- ・本川小学校にはたくさんの資料が
ありました。地下には、原爆に見
立てたボールを中心に、広島
の街の模型がありました。とても細
かくて被爆した場所とそうでない場
所の違いが分かりやすかったです。



- ・本川小学校にたくさんの死体や原爆で傷ついた人たちが運ばれてきていたことや、死体は燃やして、周辺の土の中に埋めて、ずっとそのまま埋めていたことにおどろきました。



《平和記念資料館館内見学》

〇2019年4月にリニューアルオープンした平和記念資料館を自由見学しました。



(感想文より)

- 資料館にはたくさんの遺品や写真、絵や手紙などが展示されていました。私と同年ぐらいの男の子が着ていた服は焼けてボロボロになり、血のついた跡がありました。
- 展示されている遺品や写真、映像は原爆の恐ろしさを物語っていました。この原爆資料館を去った後に、原爆はあってはならないものだということ、そして、この原爆資料館を世界中の人々に訪れてもらいたいと思いました。
- 資料や遺品の一つ一つがボロボロになっていたり、その時の広島の様子を描いた絵は真っ赤な絵の具でべったりと血や炎のように描いてあって、見てるだけでも怖くなってくるほど描いた方の気持ちが強いものもありました。
- どの資料も印象に残っていますが、なかでも、直接熱線を浴びてしまって真っ黒になってしまった人の写真や、紫の斑点が舌や顔全体にできている人の写真や模型が一番インパクトが強く、原爆は恐ろしいものだと思える資料ばかりでした。その原爆が 2 回も日本の広島と長崎に落とされたと思うと、言葉にできないほどの悲しみや怒りがこみ上げてきます。
- 写真を見て、原爆の恐ろしさ、放射能の恐ろしさがすごく伝わってきました。
- 展示されている写真やその説明を見て、戦争の悲しさを感じることができました。原爆の大きさや被害の範囲という数字でわかるもの以外に、戦争を体験した人たちの気持ちを知ることができました。
- とてもこわい写真があって、その写真を見てから他の写真や絵を見るのが怖くなって、何も見ないようにしながら、速足で出ました。後から考えると、そのような怖い状況が実際にあったんだなと思い、とても怖かったです。



《原爆死没者慰霊碑 献花》

○戦没者への追悼と平和への祈りを込めて、献花と黙とうを行いました。



《原爆の子の像 折鶴奉納》

○市民の皆様から募集し、平和記念式典で受領した折鶴を一人一人の手で奉納しました。



（感想文より「旅を終えて」）

- 平和な国に住む我々が、世界唯一の被爆国として「ヒロシマ・ナガサキ」から原爆の惨状とともに「平和」を訴え、一日でも早く恒久平和である地球を作っていかなければならないと思います。
- 誰一人幸せにできず、誰一人救えない。そんな戦争はもうしてはならないのです。いつか、世界の人々全員が幸せを感じるような世の中にしなければなりません。その世の中を創る第一歩は「非核化」ではないでしょうか。
- たった3秒で広島から沢山のものを奪った原子爆弾は、二度と使ってはいけないものだと感じました。また、もっと多くの人に平和な世界を作るためにはどうしたらいいのかを考えてほしいと思います。
- 戦争が原爆を生んで、悲しみ、苦しみを生んだので、私たちは忘れずに、次につないでいくことが大切だと思いました。
- 戦争や核兵器についてより広く深く知ることができたので、この経験を活かして、大人になったときに被爆者や原爆で家族を失った人たちの思いを社会につなげられる人になりたいと思いました。
- 来年に東京でオリンピックが開かれて、海外の方がたくさん日本に訪れて来られると思うから、オリンピックだけでなく、ぜひ広島や長崎にも行って、原爆の悲惨さを世界に発信してほしいなと思いました。
- 原爆の本当の恐ろしさは被爆した人々にしか分からないと思うけど、実際に被爆していない私達にも、資料館に行ったり、想像をすれば少しはわかると思いました。
- 「戦争は人の心の中で生まれた物であるから人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ」小学校6年生のときの教科書にこう書いてあった。人は必ず悪い心を持って生まれる。だから、私たちは、平和のとりでを自分自身で築いていかななくてはならないのだと改めて思いました。
- 広島に行ったことで、僕は戦争が生み出すものは苦しみや憎しみだけだと分かりました。そして、被爆者の方に話を聞くことのできた僕たちが、周りの人に戦争について伝えていくことが大切だと思いました。
- 今、広島は昔戦争があったとも思わせないような平和な雰囲気にも包まれている。でもその陰には戦争の苦しみ、原爆の恐ろしさ、そして何よりもこの恐ろしさをまたくり返さないように、平和を創り、それを守り続けることで平和な広島ができたんだと思う。

Ⅳ 旅の総括

亀岡市長 桂 川 孝 裕

広島・長崎の被爆の悲劇、そして、終戦から74年の歳月が流れました。

今の私たちが享受している平和な日常は、過去の多くの尊い犠牲の上に成り立つものであり、決して当たり前のものではありません。先人の乗り越えてきた幾多の困難、戦後復興に注がれた心血の上に今日の平和と安寧があることに感謝し、この尊い平和の瞬間を次代を担う子どもたちへ確実に送り伝えなければなりません。

「世界連邦・非核平和都市」を宣言している亀岡市におきましては、「核なき世界」への実現を願い、世界の恒久平和に向けて様々な施策を進め、平和を希求する想いを広く内外に発信してきたところです。

さて、そのような本市の平和の取り組みの一つである市内中学生を対象とした「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」も、今年で3回目を迎えました。今年は23名にご参加いただき、被爆地広島の現地に赴き、平和について学んできました。

原爆ドームや広島平和記念資料館、本川小学校平和資料館を訪問し、被爆者の体験談やボランティアガイドの方の話、原爆に関する資料の見学を通じて、戦争や原爆の悲惨さや恐ろしさを身近に感じ、様々な思いを持って平和の尊さについて深く学習されたことが、感想文の内容からも読み取れます。

今回参加いただいた皆さんには、この旅で感じたこと、学んだことを大切にして、友達や家族、地域の中で共有していただき、その思いを胸に、自ら行動に移していただくことを期待するとともに、平和なまちづくりの一役を担ってくれることを願います。

「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」を第一歩に、平和への願いの輪が少しずつでも確実に広がっていき、世界の恒久平和の一助にならんことを切に願います。

◆参加者募集に係る資料◆

・市内各中学校に
参加者募集チラシの配布

・市広報紙「キラリかめおかおしらせ」
5月1日号にて募集記事を掲載

令和元年（2019年）5月

亀岡市放課後児童会 放課後児童支援員を募集

放課後、市内の小学校などで、児童会に入会している児童を対象に、遊びや宿題などの保育を行う職員を募集します。

応募資格 ①保育士の資格を有する人②幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの教諭となる免許状を有する人③社会福祉士の資格を有する人④大学において社会福祉学、心理学、教育学、社会学、芸術学若しくは体育学を専修する学科を修めて卒業した人。

※その他、実務経験などにより対象となる場合があります。詳しくは問い合わせください。

募集人員 若干名
任用期間 選考後～令和2年3月31日

勤務日 月～金曜日の週5日勤務（月に1回土曜日勤務あり）
勤務時間 原則、午後1時～6時15分（必要に応じ時間外勤務あり）
※ただし、次のように勤務日や勤務時間帯が季節などにより異なります。

○夏休みなどの長期休業期間や学校行事による代休開設日は、午前8時～午後6時15分のうち7時間45分
○土曜日の開設時は、午前8時～午後1時15分
○その他、学校行事などにより変更することがあります。

夏休みに平和を学ぶ生徒募集！

第3回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅

人類史上初めての原爆被災地である広島。亀岡市では、平和について考える機会として中学生を対象に第3回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅を実施します。

●実施日時 平成31年 8月22日(木)
午前7時頃～午後7時頃

●旅の目的地(予定)
広島平和記念公園及び周辺

●主なスケジュール(予定)
朝 7時10分亀岡駅集合 ⇒ (JR)⇒京都駅⇒(新幹線)⇒広島駅⇒(路面電車)⇒広島平和記念資料館(被爆体験講話)⇒昼食(広島流お好み焼き)⇒広島平和記念資料館等見学⇒(行きと同じ経路にて帰路へ)⇒夜 19時頃 亀岡駅解散

●参加募集人数 25名(各校2～3名程度)

※応募多数の場合は、抽選とします。

●参加負担金 無料(京都・亀岡ふるさと寄附金を活用し、公費で負担します)

●その他 ・参加者には後日、感想文を提出していただく予定です。
・平和の旅実施後に、参加者の感想文等をまとめた報告書を市で作成し各学校等に配布する予定です。
・参加者代表には8月7日(水)実施の「平和祈念式典」において、市民からの千羽鶴を受領してもらう予定です。
・事業中、写真・動画を撮影し、平和の旅実施報告書及び市広報並びに平和関連事業に活用します。

●事前学習説明会 参加決定者を対象に旅の実施にあたり事前の学習、交流、説明の場として開催します。
日時：平成31年7月31日(水) 午後2時～午後4時 【場所】亀岡市役所1階市民ホール

●応募方法：下記参加申込書に必要事項を記入の上、担任の先生にお渡しください。

●応募〆切：5月31日(金)

●主催・お問い合わせ先：〒621-8501 亀岡市安町野々々8番地 亀岡市役所5階
秘書広報課 秘書係 TEL.25-5001

第3回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅参加申込書

学 校 名	クラス	年 組
ふりがな	男	〒
氏 名	女	住 所
ふりがな		T E L
保護者氏名		
備 考 欄		

平和推進事業 「第3回「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅」参加者を募集

世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、平和への思いを次代へつなぐとともに、広く意識の啓蒙を図ることを目的に、市内中学生を対象とした広島への平和学習の旅を次のとおり実施します。

実施内容 ①「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅(広島での平和学習)②旅の事前学習・説明会

実施日時 ①8月22日(木)午前7時頃～午後7時頃(予定)

②7月31日(水)午後2時～午後4時

実施場所 ①広島市内 ②市役所1階市民ホール

旅の主なスケジュール(予定) 午前7時頃JR亀岡駅集合・出発⇒(JR)⇒京都駅⇒(新幹線)⇒広島駅⇒(路面電車)⇒国立広島原爆死没者追悼平和祈念館(被爆体験講話)⇒昼食⇒広島平和記念資料館ほか見学⇒(路面電車)⇒広島駅⇒(行きと同じ)⇒午後7時頃JR亀岡駅到着・解散

参加対象者 市内在住中学生(市外中学校へ通う生徒も含む)

募集人数 25人(各校2～3人、応募多数の場合は抽選)

参加負担金<交通費、昼食代など> 無料(京都・亀岡ふるさと力向上寄附金を活用し、公費負担します)

※参加者には、後日、感想文(原稿用紙1～2枚程度)を提出してもらいます。

※参加者代表には8月7日(水)実施の「平和祈念式典」において、「平和の折鶴」を千羽鶴にしたものを受領してもらう予定です。

※事業の中で撮影した写真、映像を平和関連事業などに使用します。

応募方法 市内中学校の生徒については、各学校配布の「募集チラシ兼参加申込書」に必要事項を記入のうえ、担任の先生に渡してください。その他の市内中学生については、任意の形式に(学校名、学年、氏名(ふりがな)、保護者氏名(ふりがな)、住所、連絡先)を記載のうえ、持参、FAX、または電子メールにて次のあて先に提出してください。

応募〆切 5月31日(金)

☆☆平和の折鶴募集☆☆

「ヒロシマ」に学ぶ平和の旅において広島平和記念公園で中学生が奉納する折鶴を募集します。

平和への思いを込めた折鶴で皆さんも事業に参加してみませんか。右側の枠組みの部分で切り取っていただき、折鶴を作成し、

7月19日(金)までに次の宛先までお届ください。

(他の紙でも可、ただし、7.5cm×7.5cm使用)

あて先 〒621-8501 (住所不要) 亀岡市秘書広報課秘書係
TEL.25-5001 TEL.25-0600

hisyo@city.kameoka.lg.jp

※平和の折鶴は、市役所1階市民情報コーナーに設置の折鶴受付BOXでも受け付けます。

(秘書広報課)



亀岡市の広報紙・ホームページへの広告掲載を募集しています！！

◆平和の折鶴市民参加に係る資料◆

市広報誌「キラリかめおかおしらせ」5月1日号にて、広く市民から平和の折鶴を募集しました。

結果： **2万羽** を超える折鶴が集まりました。これら折鶴は、平和の旅の中、参加生徒一人ひとりから奉納していただきました。

令和元年（2019年）5月1日号（5月7日発行）No.863（11）

亀岡市放課後児童会 放課後児童支援員を募集

放課後、市内の小学校などで、児童会に入会している児童を対象に、遊びや宿題などの保育を行う職員を募集します。

応募資格 ①保育士の資格を有する人②幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの教諭となる免許状を有する人③社会福祉士の資格を有する人④大学において社会福祉学、心理学、教育学、社会学、芸術学若しくは体育学を専修する学科を修めて卒業した人。

※その他、実務経験などにより対象となる場合があります。詳しくは問い合わせください。

募集人員 若干名

任用期間 選考後～令和2年3月31日

勤務日 月～金曜日の週5日勤務（月に1回土曜日勤務あり）

勤務時間 原則、午後1時～6時15分（必要に応じ時間外勤務あり）

※ただし、次のように勤務日や勤務時間帯が季節などにより異なります。

○夏休みなどの長期休業期間や学校行事による代休開設日は、午前8時～午後6時15分のうち7時間45分

○土曜日の開設時は、午前8時～午後1時15分

○その他、学校行事などにより変更することがあります。

勤務場所 市内各放課後児童会

報酬 年額1,347,800円程度

※月額は就労時間数によって変動します。

※交通費別途支給

社会保険 あり

採用方法 書類選考および面接を実施の上、任用します。

応募方法 5月24日（金）までに、市販または市役所4階社会教育課に備え付けの履歴書に必要事項を記入し、写真（カラー）を貼り付けた上で、社会教育課に提出してください。

〒25-5199 市役所4階社会教育課

☎25-5199 ☎25-5513

（社会教育課）

平和推進事業 「第3回“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」 参加者を募集

世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、平和への思いを次代へつなぐとともに、広く意識の啓発を図ることを目的に、市内中学生を対象とした広島への平和学習の旅を次のとおり実施します。

実施内容 ①“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅（広島での平和学習）②旅の事前学習・説明会

実施日時 ①8月22日（木）午前7時ごろ～午後7時ごろ（予定）

②7月31日（水）午後2時～午後4時

実施場所 ①広島市内 ②市役所1階市民ホール

旅の主なスケジュール（予定） 午前7時ごろJR亀岡駅集合・出発⇒（JR）⇒京都駅⇒

（新幹線）⇒広島駅⇒（路面電車）⇒国立広島原爆死没者追悼平和祈念館（被爆体験講話）⇒

昼食⇒広島平和記念資料館ほか見学⇒（路面電車）⇒広島駅⇒（行きと同じ）⇒午後7時ごろJR亀岡駅到着・解散

参加対象者 市内在住中学生（市外中学校へ通う生徒も含む）

募集人数 25人（各校2～3人、応募多数の場合は抽選）

参加負担金＜交通費、昼食代など＞ 無料（京都・広島往復の交通費を上乗せし、公費負担します）

※参加者には、後日、感想文（原稿用紙1～2枚程度）を提出してもらいます。

※参加者代表には8月7日（水）実施の「平和祈念式典」において、「平和の折鶴」を千羽鶴にしたものを受領してもらう予定です。

※事業の中で撮影した写真、映像を平和推進事業などに使用します。

応募方法 市内中学校の生徒については、各学校配布の「募集チラシ兼参加申込書」に必要事項を記入のうえ、担任の先生に渡してください。その他の市内中学生については、任意の様式に（学校名、学年、氏名（ふりがな）、保護者氏名（ふりがな）、住所、連絡先）を記載のうえ、持参、FAX、または電子メールにて次のあて先に提出してください。

応募締切 5月31日（金）

☆☆平和の折鶴募集☆☆

「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」において広島平和記念公園で中学生が奉納する折鶴を募集します。

平和への願いを込めた折鶴で皆さんも事業に参加してみませんか。右側の枠囲みの部分を切り取っていただき、折鶴を作成し、

7月19日（金）までに次の宛先までお届けください。

（他の紙でも可、ただし、7.5cm×7.5cm使用）

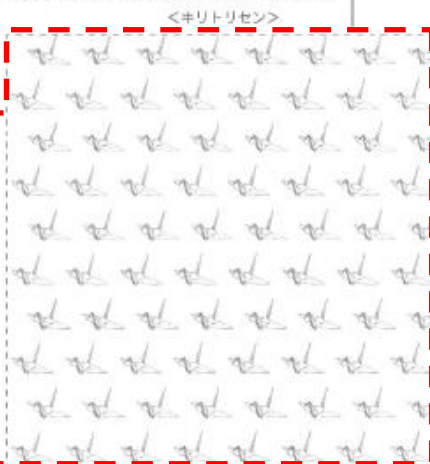
あて先 ☎〒621-8501（住所不要）亀岡市秘書広報課秘書係

☎25-5001 ☎25-0600

✉hisyo@city.kameoka.lg.jp

※平和の折鶴は、市役所1階市民情報コーナーに設置の折鶴受付BOXでも受け付けます。

（秘書広報課）



亀岡市の広報紙・ホームページへの広告掲載を募集しています！！

